

# 高山市 脱炭素・ウェルビーイング調査 結果概要

住民の暮らしの豊かさと、脱炭素への意識・行動の関係をたずねました（有効回答 134 名）

## この調査で知りたかったこと

高山市は 2023 年 11 月に環境省の「脱炭素先行地域」に選定され、市民協働型の小水力発電所の整備や木質バイオマス熱電併給設備の導入を通じて、2050 年の市全域ゼロカーボンを目指しています。

こうした取り組みは、そこで暮らす人のウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態）とどう関わるのか。脱炭素をエネルギーの話としてだけでなく「暮らしの豊かさ」の観点から捉え直すために、住民のみなさまに直接おたずねしました。本調査は第一段階の調査にあたります。

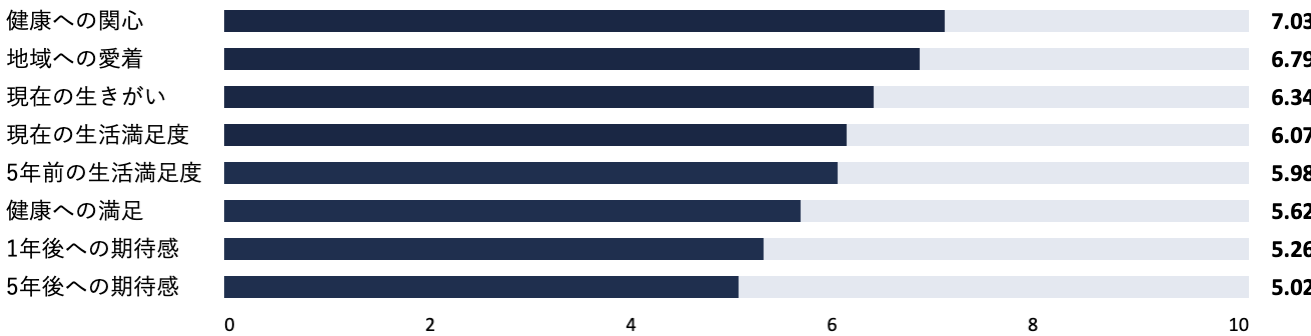
## 調査の範囲と手法

|        |                                                                         |
|--------|-------------------------------------------------------------------------|
| 調査エリア  | 類型 1：小水力発電立地町内会（久手、巣野俣、塩屋、阿多野郷、野麦、渚、旗鉾、上青屋、日和田、黍生、新穂高、大坊、一色、位山の 14 町内会） |
| 実施時期   | 2026 年 3～4 月                                                            |
| 調査方法   | 自記式アンケート調査（町内会を通じて調査票を各世帯へ配布し、郵送により回収）                                  |
| 配布数    | 510 部                                                                   |
| 有効回答   | 134 名（有効回答率 26.3%） 対象は上記 14 町内会の 18 歳以上                                 |
| 平均年齢   | 63.7 歳（22 歳～89 歳）                                                       |
| 設問数    | 47 問（暮らし・地域・脱炭素）                                                        |
| 回答者の属性 | 男性 61.2%/39 歳以下 3.7%/30 年以上居住 94.8%/自動車を複数台保有 81.8%                     |
| 実施主体   | 学校法人 ColU                                                               |

## ウェルビーイング指標の結果（平均）

暮らしの 8 つの側面を、それぞれ 0～10 点で評価していただきました（10 点が最も良い状態）。

**グラフの見方** 濃紺は各項目の回答値（割合または平均値）、薄いグレーは尺度の残り部分を示します。棒の色は項目の種類や評価段階を区分するものではありません。



「今」はそれなりに満たされている。しかし「これから」に期待が持てない。

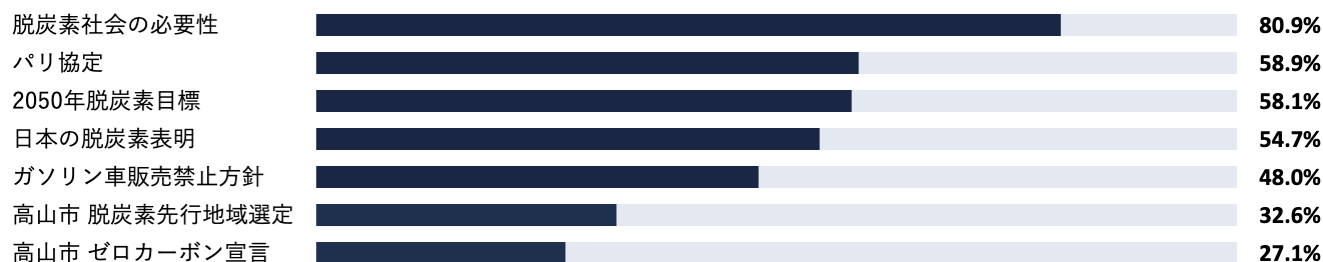
健康・地域への愛着・生きがいは比較的高い水準にある一方、将来への期待感（5 年後 5.02/1 年後 5.26）だけが落ち込みます。統計的にみても、現在の生活満足度をもっとも強く左右していたのは「5 年後への期待感」、次いで「現在の生きがい」でした。地域の将来に不安を感じる人は 83.4% にのびります。

地域のつながりについては、地域の人を信用できる・地域に愛着があるという回答が多数を占め、約 7 割が「地域のつながりは強い」と感じています。一方で、病気のときに近隣に頼れる人がいると答えたのは 4.5%

にとどまり、地域活動への参加もすべての種類で「参加していない」が最多でした。つながりの実感はあるが、実際に頼り合う関係は細くなっていることがうかがえます。

## 脱炭素に関する調査結果

### ① 脱炭素に関する事柄の認知



「よく知っていた」＋「知っていた」と答えた人の割合。参考：「サステナビリティ」の意味を知らないと答えた人は48.5%、小水力発電を「よく知っている」は30.7%、「聞いたことはある」は40.2%。

### ② 再生可能エネルギーへの態度



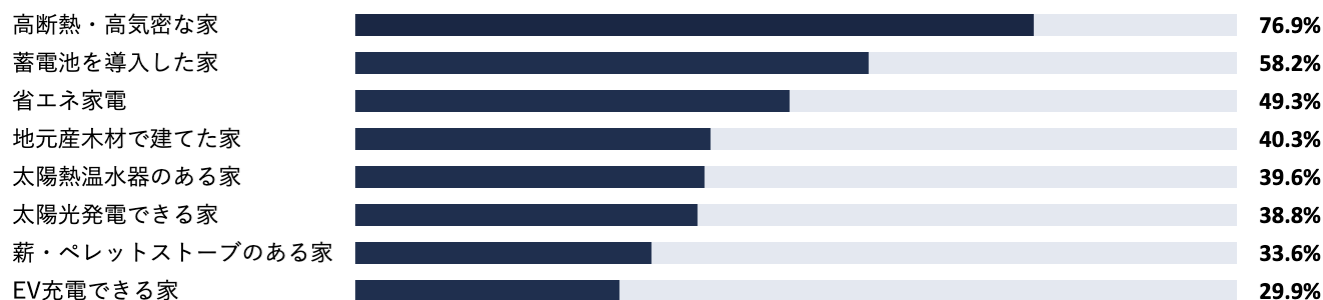
「強く推進すべき」＋「推進すべき」と答えた人の割合。「分からない」と答えた人を除いて集計（有効回答 106～113名）。

### ③ 脱炭素に関する政策への賛否



数値は平均値（1＝強く賛成 ～ 5＝強く反対）。小さいほど賛成寄り。「分からない」を除いて集計（有効回答 94～114名）。

### ④ 家を建てる・リフォームする際に魅力を感じるもの



複数回答。回答者 134 名に占める割合。参考：電気自動車については「興味はあるが今は検討していない」が 58.5%、「全く興味がない・購入するつもりはない」が 23.1%。

## その他にわかったこと

### 01 地球温暖化への認識

「被害は今後ますます深刻になる」3.66、「将来がとても心配だ」3.66、「影響はすでに現れている」3.63（4点満点）。一方、「自分の生活が原因になっている」は2.80、「日本は中国・インドより大きな責任がある」は2.30。

### 02 温暖化対策の実践状況

暖房温度を上げすぎない1.84、冷房温度を下げすぎない1.87、照明をつけっぱなしにしない1.96。一方、公共交通機関の利用3.51、自宅への太陽光発電の設置3.61、地域活動への参加3.63（1＝積極的に取り組んでいる～4＝まったく取り組んでいない）。

### 03 再エネ導入で重視すること

明確な計画・ルール1.88、景観・生活環境への配慮1.96、住民への直接的な経済的配分2.00、十分な説明と住民意見の反映2.01、地域内でのエネルギー利用の優先2.02。全10項目が2点台前半（1＝強くそう思う～5＝全くそう思わない）。

## ここまでの結果から見えてきたこと

**脱炭素の必要性は伝わっていても、高山市の取り組みはまだ十分に知られていません。**

「脱炭素社会の必要性」を知っていた方は80.9%にのぼる一方、高山市のゼロカーボン宣言を知っていた方は27.1%、脱炭素先行地域への選定を知っていた方は32.6%にとどまりました。市の取り組みをどう伝えるかが課題です。

**地域の資源を活かした取り組みには、期待が寄せられています。**

再生可能エネルギーのなかでは水力発電を「推進すべき」と答えた方が81.3%と最も多くなりました。ただし小水力発電を「よく知っている」と答えた方は30.7%にとどまります。

**関心が集まっているのは、暮らしに身近なところです。**

政策では断熱改修や再生可能エネルギー導入への補助に賛成が集まり、住まいについても「高断熱・高気密な家」への関心が76.9%と最も高くなりました。身近な暮らしの話題が、取り組みを広げる入口になりそうです。

### 今後について

本調査は、発電所が立地されている地域を対象とした第一段階の調査です。今後は電力を受け取る地域でも同じ調査を行い、さらに事業が進んだ段階で改めて調査します。

### この調査の限界について

回答者は平均年齢63.7歳と高齢層が中心で、39歳以下は3.7%にとどまります。世帯年収の設問には選択肢の欠落がありました。「分からない」を除いて集計した設問では、有効回答が80～95名程度に減っています。本資料に示した相関・回帰の分析結果は、変数間の関連の強さを示すもので、因果関係を示すものではありません。

**出典：**高山市ウェルビーイングと脱炭素に関するアンケート調査 分析レポート（学校法人 CoIU）